

安全データシート

作成日: 2009年5月1日

改訂日: 2023年9月7日

1. 物質または混合物および会社情報

物質または混合物の名称	US-CLEAN(ユーエスクリーン)
製品型式および製品コード	USC-11702: SP9231 USC-11704: SP9232 USC-11718: SP9233
会社名	株式会社エスエヌディ
会社住所	長野県諏訪市四賀 3225 番地 2
担当部門	営業部
電話番号	0266-58-6688
FAX 番号	0266-58-6654
化学品の使用用途と使用上の制限	工業用洗浄剤

2. 危険有害性の要約

GHS 分類	
物理化学的危険性	
爆発物	分類できない
可燃性ガス	分類できない
エアゾール	分類できない
酸化性ガス	分類できない
高圧ガス	分類できない
引火性液体	区分に該当しない
可燃性固体	分類できない
自己反応性化学品	分類できない
自然発火性液体	分類できない
自然発火性固体	分類できない
自己発熱性化学品	分類できない
水反応可燃性化学品	分類できない
酸化性液体	分類できない
酸化性固体	分類できない
有機過酸化物	分類できない
金属腐食性化学品	分類できない
鈍性化爆発物	分類できない
健康に対する有害性	
急性毒性	
経口	分類できない
経皮	分類できない
吸入(ガス)	区分に該当しない
吸入(蒸気,粉じん,ミスト)	分類できない
皮膚腐食性/刺激性	区分 2
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分 1
呼吸器感作性または皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	分類できない
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	分類できない
誤えん有害性	分類できない
環境に対する有害性	
水生環境有害性 短期(急性)	区分 3
水生環境有害性 長期(慢性)	分類できない
オゾン層への有害性	分類できない

GHS ラベル表示
絵表示注意喚起語
危険有害性情報危険
皮膚刺激
重篤な眼の損傷
水生生物に有害注意書き
安全対策

取扱い後はよく手を洗うこと。
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
必要な時以外は環境への放出を避けること。
皮膚に付着した場合: 多量の水で洗うこと。
皮膚刺激が生じた場合: 医師の診断、手当てを受けること。
汚染された衣服を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。
眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用して
いて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
直ちに医師に連絡すること。
内容物/容器を、国際/国/都道府県/市町村の規制に従って廃棄すること。

応急措置

廃棄

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別
組成および成分情報

混合物

化学名	含有量	化学式	官報公示整理番号		CAS 番号
			化審法	労衛法	
ポリオキシアルキレンアルキルエーテル	10%~15%	非公開	既存	既存	非公開
ケイ酸塩	1%~5%	非公開	既存	既存	非公開

4. 応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移動させて安静にし、必要に応じて医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合

多量の水および石鹼で洗い流す。症状が出た場合は、必要に応じて医師の診断を受ける。

眼に入った場合

水で数分間、注意深く洗う。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。直ちに医師に連絡すること。

飲み込んだ場合

直ちに口をすすぎ、無理に吐かせない。
直ちに医師の手当てを受ける。
水や牛乳、生卵を飲ませることが良い場合もあるが、症例によって処置が異なるため、必ず医師の指示に従う。

応急措置をする者の保護

ゴム手袋と密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。

5. 火災時の措置

消火剤

水、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂など火災に応じたもの。

特定の危険有害性

燃焼ガスには、一酸化炭素等の有害ガスが含まれるので、消火作業の際には煙の吸入を避ける。

特定の消火方法

火元の燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消化する。
消火作業は、可能な限り風上から行う。
関係者以外は安全な場所に退避させる。
周囲の設備などに散水して冷却する。
消化のための放水等により、製品または化学物質下水に放流しないよう適切な措置を行う。

消火を行う者の保護

適切な保護具(保護手袋、保護眼鏡、保護マスクなど)を着用する。

6. 漏出時の措置

<p>人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置</p>	<p>多量の場合、人を安全な場所に退避させる。 作業時には、適切な保護具(保護手袋、保護眼鏡、保護マスクなど)を着用する。必要に応じた換気を確保する。</p>
<p>環境に対する注意事項 封じ込め及び浄化の方法/機材</p>	<p>漏出物を直接に河川や下水に流してはいけない。 少量の場合、乾燥砂、土、おがくず、ウエス等に吸着させ、残りをウエス、雑巾等でよく拭き取り、大量の水で洗い流す。 多量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所へ導いてからドラム缶等に回収する。回収した漏出物は、廃棄上の注意に従い廃棄する。 漏出物周辺の関係者以外の立ち入りを禁止する。 床を濡れた状態で放置すると滑りやすく、スリップ事故の原因となるため注意する。漏出物の上をむやみに歩かない。</p>
<p>二次災害の防止策</p>	

7. 取り扱い及び保管上の注意

<p>取り扱い</p> <p>技術的対策</p>	<p>適切な保護具(保護手袋、保護眼鏡、保護マスクなど)を着用する。 取り扱い場所の近くに洗眼及び身体洗浄のための設備を設ける。 製品を取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。 洗浄剤以外の用途では使用しないこと。 接触、吸入または飲み込まないこと。 取り扱い後は、手・顔などをよく洗い、うがいをする。</p>
<p>安全取扱注意事項 衛生対策</p>	
<p>保管</p> <p>技術的対策 適切な保管条件</p>	<p>直射日光を避け、通気の良い涼しい場所に保管場所を設ける。 直射日光を避け、通気の良い涼しい屋内の場所に保管する。 一度開封した容器の保管は、再度密閉して保管する。 製品容器と同等の材質の容器を使用する。 密閉が可能で破損しにくい容器を使用する。</p>
<p>安全な容器梱包材料</p>	

8. ばく露防止及び保護措置

<p>設備対策</p>	<p>取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。 製品を取り扱うために必要な換気の設備を設ける。</p>
<p>保護具</p> <p>呼吸器の保護具 手の保護具 眼の保護具 皮膚及び身体の保護具</p>	<p>通常の取り扱いでは必要ない。 不浸透性(耐薬品、耐油、耐溶剤)保護手袋を着用する。 保護眼鏡(側板付き、ゴーグル型)を着用する。 必要に応じて保護クリーム、長袖作業衣、保護長靴を着用する。</p>

9. 物理的及び化学的性質

<p>物理的状态</p> <p>色</p> <p>臭い</p> <p>融点・凝固点</p> <p>沸点または初留点および沸点範囲</p> <p>可燃性</p> <p>爆発下限および上限/引火限界</p> <p>引火点</p> <p>自然発火温度</p> <p>分解温度</p> <p>pH</p> <p>動粘性率</p> <p>溶解度</p> <p>n-オクタノール/水分配係数(log 値)</p> <p>蒸気圧</p> <p>比重</p> <p>蒸気比重</p> <p>粒子特性</p>	<p>液体</p> <p>乳白色</p> <p>ほとんどなし</p> <p>データなし</p> <p>データなし</p> <p>製品自体に可燃性は無いが、水分蒸発後は燃える</p> <p>データなし</p> <p>データなし</p> <p>データなし</p> <p>データなし</p> <p>データなし</p> <p>10.9(5%水溶液:代表値)</p> <p>データなし</p> <p>水に対して任意に溶解する</p> <p>データなし</p> <p>データなし</p> <p>1.01~1.04</p> <p>データなし</p> <p>データなし</p>
---	--

10. 安定性及び反応性

反応性	自己反応性なし
化学的安定性	通常の取り扱い条件では安定
危険有害反応性の可能性	データなし
避けるべき条件	データなし
混触危険物質	水と同様に濃硫酸と接触すると発熱する
危険有害性のある分解生成物	データなし
その他	長期に静置しておくくと分離がみられるが、攪拌して均一にすれば、物性および性能に大きな変化はない。

11. 有害性情報

急性毒性	
経口	データなし
経皮	データなし
吸入(ガス)	データなし
吸入(蒸気、粉じん、ミスト)	データなし
皮膚腐食性/刺激性	区分2 (配合原料の SDS 分類及び濃度による)
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分1 (配合原料の SDS 分類及び濃度による)
呼吸器感作性	データなし
皮膚感作性	データなし
生殖細胞変異原性	データなし
発がん性	データなし
生殖毒性	データなし
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	データなし
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	データなし
誤えん有害性	データなし

12. 環境影響情報

生態毒性	水生環境有害性 短期(急性) 区分3 (配合原料の GHS 分類及び濃度による)
残留性・分解性	データなし
生物蓄積性	データなし
土壤中の移動度	データなし
オゾン層への有害性	モントリオール議定書の付属書に列記された物質を含まない。
生物化学的酸素消費量(BOD)	13000mg/L
化学的酸素消費量(COD)	140000mg/L

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に処理を委託する。 製品の処理を委託する場合は、処理業者に危険性及び有害性を十分に告知する。 製品の低濃度排水は、水質汚濁防止法、下水道法および都道府県条例従って処理する。
汚染容器および包装	容器は清浄にしてリサイクルするか、関係法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を破棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制	
国連番号	該当しない
国連分類	該当しない
容器等級	該当しない
国内規制	
陸上輸送	消防法、労働安全衛生法及び道路運送車両法に定められている輸送方法に従う。
海上輸送	船舶安全法に定められている輸送方法に従う。
航空輸送	航空法に定められている輸送方法に従う。
輸送または輸送手段に関する特別な 安全対策	輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。 転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

15. 適用法令

化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法)	該当しない
労働安全衛生法	該当しない
化学物質の審査及び製造等の規制に 関する法律	該当しない
消防法	該当しない
毒物及び劇物取締法	該当しない

16. その他の情報

参考文献	JIS Z 7252:2019 GHSに基づく化学品の分類方法 JIS Z 7253:2019 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラ ベル, 作業場内の表示及び安全データシート(SDS) 原材料製造会社の SDS
記載内容の取扱い	記載内容は、現時点で入手できる情報に基づいて作成しておりますが、新 しい知見により改訂されることがあります。 含有量、物理化学的性質等は保証値ではありません。 注意事項は通常の手取り扱いを対象としたもので、特殊な取り扱いの場合 は、用途に適した安全対策を実施してください。 危険性及び有害性の評価は必ずしも十分ではなく、全ての化学製品には未 知の危険性や有害性がありえるため、取り扱いには十分注意してください。

以上